

## 緊急消防援助隊について

### 1 目的

国内で発生した地震等の大規模災害発生時における人命救助活動等をより効果的かつ迅速に実施する体制を国として確保するため創設した制度

### 2 創設の経緯

阪神・淡路大震災での教訓（災害初期における災害情報等の収集、人命救助活動等を行う応援部隊の早期出動の必要性等）を踏まえ、平成7年度に創設（H7.6.30）。以後、部隊数の増強を行い、現在、2,028隊（29,000人規模）。

### 3 概要

消防庁長官の応援のための措置の要求（消防組織法第24条の3）で広域応援活動に従事。

緊急消防援助隊は、8の部隊（指揮支援部隊、救助部隊、救急部隊、消火部隊、後方支援部隊、航空部隊、水上部隊、特殊災害部隊）から編成されている。

#### 各部隊の概要

指揮支援部隊	13隊	ヘリ等により迅速に現地に展開し、被災状況の把握、消防庁との連絡調整、現地消防機関の指揮支援を行う
救助部隊	242隊	高度救助用資機材を備え、要救助者の探索、救助活動を行う
救急部隊	363隊	高度救命用資機材を備え、救急活動を行う
消火部隊	929隊	大規模火災発生時の延焼防止等消火活動を行う
後方支援部隊	68隊	各隊の活動を支援するために、給水設備・トイレ・寝具等を備えた車両により必要な補給活動を行う
航空部隊	57隊	消防・防災ヘリコプターを用いて消防活動を行う
水上部隊	17隊	消防艇を用いて消防活動を行う
特殊災害部隊	339隊	石油・化学火災、毒劇物・放射性物質災害等特殊な災害へ対応するための消防活動を行う
計	<u>2,028 隊（29,000 人規模）</u>	

### 4 主な出動事例

- ① 蒲原沢土石流災害（H8年12月6日）  
東京消防庁延べ49隊268名、名古屋市消防局延べ23隊114名が出動。
- ② 有珠山火山災害（H12年3月31日）  
指揮支援部隊として札幌市消防局1隊5名及び仙台市消防局1隊5名、横浜市消防局耐熱装甲型救助車等3隊25名、東京消防庁耐熱装甲型救助車及び大型ポンプ送水車等6隊23名並びに川崎市消防局大型ポンプ送水車等4隊14名が出動。
- ③ 鳥取県西部地震（H12年10月6日）震度6強  
広島市消防局及び神戸市消防局の指揮支援部隊がヘリにより被害状況調査。
- ④ 芸予地震（H13年3月24日）震度6弱  
大阪市消防局等1県5市の指揮支援部隊・航空部隊がヘリにより被害状況調査。